

Japan Food Expert 代表取締役 長田 絢さん

「食」で人の役に立ちたい、世の中を良くしたい、
という想いを形にするための企業として成長し続けたい

なでしこ力



長田 絢さん

「食べることは生きること、食を通じて健康と幸せを！」という企業理念で、食に関する事業を展開している Japan Food Expert（名古屋市）代表取締役の長田絢さん。2009年、同社を二十代で起業し、当時の理念を変えることなく、エネルギーに進んできた。

Japan Food Expert の事業は、食をテーマとした講演やセミナー、料理教室、商品開発やレシピ制作、テレビ番組やラジオの出演、コラムや情報誌への執筆など多岐にわたる。食のプロデューサーとして各地の地域創生事業にも関わり、例えば熱海市の名産品「だいたい」を活用した飲食店支援や、愛知県幸田町の特産物である「夢やまびこ豚」と「筆柿」を使ったカレーの商品化などのプロジェクトにプランニングから携っている。

起業して3年目には、星が丘テラス（千種区）に「comer（コメル）」を出店した。「（運営ノウハウなどは）何も知らない状態で迷いましたが、ご縁をいただいたので出店を決断しました」と長田さん。レストランと物販を併設した店舗で、多い時は十数人を雇用して仕事にまい進した。その経験を活かし、愛知県を始め、東京都や岐阜県の様々な業態の飲食店の企画プロデュースを次々と任されるようになる。「中小機構地域活性化支援アドバイザー」という肩書きも持ち、農商工等連携認定事業や6次産業

化のサポートも行い、2015年度には「がんばる中小企業300社」に選定されている。

テレビ番組では料理コーナーはもちろん、情報番組のコメンテーターや企業訪問ロケなども行い、食品や飲料メーカーのCMなどにも多数出演しながら、裏方である企画やコーディネーターにも携わっている。

さらに昨年10月には書籍「スーパーで買える「肉」を最高においしく食べる100の方法」（ダイヤモンド社・刊）を出版した。

コロナ禍でも仕事の幅を広げて

しかしコロナ禍でこれまでの講演会や大規模イベントは、ほとんどなくなった。「これまでと同じスタンスで何もしなければ経年劣化するだけ」と長田さんは、自身で料理のレシピを紹介するYouTubeを開設。新しくカメラを購入して、撮影、動画編集を行い、定期的に配信をしている。するとYouTubeを見た取引先から動画制作の依頼があって新事業につながり、さらに仕事の幅を広げることに成功した。